

2020 年 4 月 27 日(月)新聞発行番号 4

生活支援コーディネーター(SC)より協議体のみなさまへメッセージ

北小圏域

相澤要

生活支援コーディネーター

日頃より大変お世話になっております。
これまでの協議体において、地域の住民に『支えあい』への関心を広げるための情報発信を中心に話し合いを勧めてきました。
協議体の参加者の意見や提案から、自分たちの地区(顔なじみの人たち)や長泉町に対する『思い』や『やさしさ』、そして『危機感』を感じ取れました。これから、地域の住民の方々に『必要な情報』がより身近に聞ける方法を検討していこうとしていこうとしていた中、コロナウイルスの全国的(全世界)な感染拡大により、協議体の開催を休止している状況です。
地域の活動も自粛を余儀なくされています。
今は我慢する時ですが、感染が収束した際は、改めて協議体において前向きで、楽しく話しあえる機会を持ちましょう。

長小圏域

室岡千春

NEW

生活支援コーディネーター



日頃より大変お世話になっております。
第2層協議体会議においてゴミ出しや電球の取り換えなど、生活の中でのちょっとした困りごとを解決できる仕組みについて考えていたところ、新型コロナウイルス感染症の影響で話し合いができない状況となってしまいました。外出しにくい状況ですが、ご近所同士の挨拶や電話での会話はとても大切です。できることは是非やってみましょう。今の状況で困ったことも含めて、また皆さんと話し合いたいと思います。

南小圏域

元原公子

生活支援コーディネーター

日頃より大変お世話になっております。
第2層協議体会議において南圏域で居場所づくりについて話し合いを進める中で、このような感染症対策の為、集まることができなくなりとても残念に思っています。ですが、このような状態になったからこそ見えてくる事もあるなど感じています。皆さんと電話で交流する中で不自由な時間の中にも地域に目をむけこのような有事に対し何ができるかと考え前向きに充電されている様子を感じさせていただいております。力強くありがたく思っています。
次に集まれる日までご自愛くださりご家族皆様と健康でお過ごしください。感染症が終息し協議体会議開催の際には、また、みんなで意見を持ち寄りましょう。そして、活発な意見交換を行いましょう。楽しみにしています。

全域

渡邊麻由

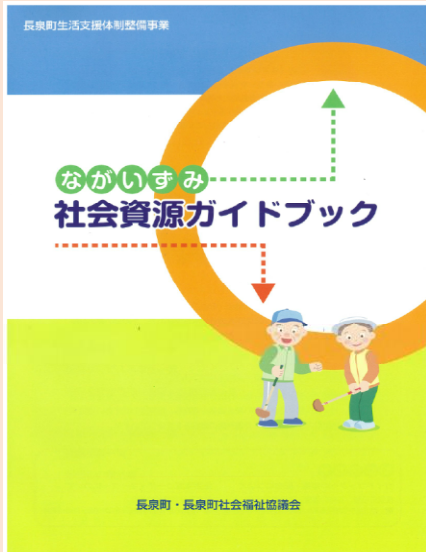
生活支援コーディネーター

前代未聞の災害、新型コロナウイルス感染拡大防止により協議体も実質上ストップした状態です。
日頃から地域の福祉活動を推進してこられた協議体個々の皆様にとってこの自粛期間はどのように感じておられるでしょうか。私はこれまで当たりまえに感じてきたコミュニケーションが今とても尊く、重要な時間であったことを再認識しています。「ライフラインは正常、窮屈ですが暮らしを継続できる。」そんな中でも今私たちは「困りごとを抱える当事者」になったのだと感じます。
医療ニーズが高まり医療現場がクローズアップされる一方、福祉はクローズアップされにくいですが、町内でも介護現場や社会福祉法人、NPOや地域包括支援センター、社協も福祉ニーズと向き合っています。地域にお住まいの高齢者の方々がこの自粛により心身ともに疲れ、ご不安を抱え不活発なご状態が続くと要介護状態への加速が予想されます。
地域のたすけあいが必要で、地域のたすけあいのしくみをこれから協議していくこの時期の活動自粛がとてもつらく残念です。
私はこの期間に感じた「人と話したい」「人と繋がりたい」「出かけたい」この思いが、コロナウイルス終息後たすけあいのしくみに形となって進んでいくことを期待して、今できることを実践していきます。まずは自助から。感染予防を徹底していただき、次回皆様と元気にお会いできることを楽しみにしております。今後ともよろしくお願いいたします。

お知らせ

長泉町発行の広報誌「広報ながいずみ」5/1号で生活支援体制整備事業について協議体の皆様との軌跡が掲載される予定です。
この協議体＝話合う場があることを広く住民の皆様にご周知いただくこともたすけあいの一歩だと感じます。是非ご覧ください。

社会資源ガイドブック発行しました！



社会資源ガイドブックは、町のホームページでダウンロードできます。

4/26 静岡新聞に掲載されました。

第1層協議体で協議の上 完成しました。

長泉町生活支援体制整備事業社会資源ガイドブックが完成しました。

小地域福祉活動やシニアクラブ長泉についてなど、居場所情報や取組みを掲載しています。

このガイドブックがきっかけとなり仲間が増え他の区の情報を得て地域が活性化することを期待しています。



支え合い会議紹介



南一色での様子

平成30年と令和元年に区の活動に参加させていただき、自分住む区はどんなまちだろう。住民の方々とカードを使って意見交換をしました。

地域住民同士でどんな支え合いができるだろうか。生活支援コーディネーターと楽しみながら考えます。ご希望の方は担当の生活支援コーディネーターへお申し込みください。(公民館等で開催予定です。)



駅上での様子

新型コロナウイルス感染拡大防止期間が終えた後、順次募集します。ご検討ください。

S C居場所見学ツアー



自宅開放型の居場所
(函南町)

生活支援コーディネーターは昨年、県内の居場所を視察し様々な活動について勉強してきました。函南町では自宅で居場所を展開している方がいます。昼食を作ってお昼を囲んでいました。主催者である家主は高齢となり、昼食を調理する方々で家主を支えています。昼食を作っている方々にとってもここは大事な居場所と教えていただきました。支え手も支えられ、お互いにとって大事な居場所。新型コロナウイルスが終息したら長泉町内でも居場所見学ツアーを開催したいと考えています。

居場所紹介コーナー

先月、この生活支援体制整備事業新聞で、巷で噂の原分区の活動を紹介させていただきました。この生活支援体制整備事業新聞では、協議体の皆様に地域活動をご紹介させていただき、地域活動へのヒントとなるよう是非お住まいの地域活動をこの生活支援体制整備事業新聞でご紹介してください。生活支援コーディネーターが取材します。「活動を紹介したい」方も募集します！

第2回地域福祉検討会振り返り

昨年開催した地域福祉検討会では、平成30年に行ったアンケート結果を共有しました。

質問. 長泉町でのたすけあいに必要なことを教えてください。具体的にどのような取り組みが必要ですか。

回答者

地域住民

回答

- ・小さな単位での支援体制づくり
- ・ちょっと休憩できる場所、話ができる場所や椅子
- ・地域住民向けの勉強会
- ・居場所づくり見守り体制づくり
- ・買い物や通院などの足の問題
- ・ちょっとしたことを依頼できるシステムが欲しい、困りごと110番
- ・色々なニーズに対応できるボランティアの協力(有償ボランティア、低価格)

当時のアンケート結果と現在の協議体での協議内容が繋がっていて着実に一步一步前進していることを再確認しました。

発行元 問合せ

社会福祉法人長泉町社会福祉協議会

第1層生活支援コーディネーター渡邊麻由

長泉町下土狩967番地の2 福祉会館内

TEL 055-988-3920

bureau@nagaizumi-shakyo.jp